香川県農業試験場研究報告　第 13 号（1962 年 9 月）　18-22

**てん菜の倍数体品種の採種に関する研究**

**第 2 報　試作三倍体品種の採種量及びその生産力について**

末沢一男・山本保・安部秀雄・村井修

昭和 35 年より甜菜の倍体と二倍体品種の交配を色々行って来た結果

１．暖地における越冬採種栽培において開花期が余り変らない品種を用いる場合,三倍体種子は比較的容易に採種出来る。

２．四倍体と二倍体種子を混合して播種する方法が割合容易であり混合比率は四倍体種子を 2 倍体種子の三倍以上に多くすることが必要と思われる。

３．開花期が 4～5 日の差であれば四倍体と二倍体種子混合比が 2：1 では,それより生育した株の比率は 1：1 になる。併しこれより採種した種子でも三倍体種子は大体 50%前後得られた。

４．三倍体品種の生産力は期得する以上に高く,且つ特性の組合せが容易である。

５．不完全になる雄性不稔母本を用いても三倍体種子の比率は通常二倍体を母本に用いた場合より高く出ることが判った。